

エコアクション21
環境経営レポート

(2023年11月1日～2024年3月31日)



2024年 4月 15日発行



有限会社 田中設備企画



目 次



1. 組織の概要 ・ 対象範囲	P.1
2. 環境経営方針	P.2
3. 組織図及び実施体制	P.3
4. (基準年の環境負荷と)環境目標	P.4
5. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P.5 P.6 P.7
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P.8
7. 2023年度環境活動計画の実施状況	P.9
8. 環境活動状況	P.10
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.11 P.12





1. 組織の概要・対象範囲

① 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 田中設備企画
代表取締役 田中 賢司

(2) 所在地

本社: 神奈川県相模原市緑区二本松四丁目25番3号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 西原 正子
EA21事務局 前原 渚
連絡先 電話 042-703-7330
FAX 042-703-7340
e-mail main.tanaka@tanaka-sk.co.jp

(4) 事業活動の内容

給排水・衛生・空調・消防設備の設計・施工

(5) 事業の規模 (2022年度(2022/4~2023/3))

売上高:2億9千万円(2022年度)

	本 社
従業員数(人)	9人
延床面積(m ²)	112.2m ²



② 対象範囲(全組織・全活動)

(1) 認証・登録対象組織:本社

(2) 認証・登録対象活動

給排水・衛生・空調・消防設備の設計・施工

2. 環境経営方針



基本理念

有限会社田中設備企画は、地球や地域の環境を守り、美しい地球を未来に引き継いでいく事が重要課題であることを認識し、管工事業、水道施設工事業、舗装工事業、消防施設工事業、土木工事業の設計施工に付帯する事業活動を通じて、積極的に環境負荷の低減に取り組み、地球温暖化防止と環境保全活動の継続的活動に取り組みます。

環境経営方針

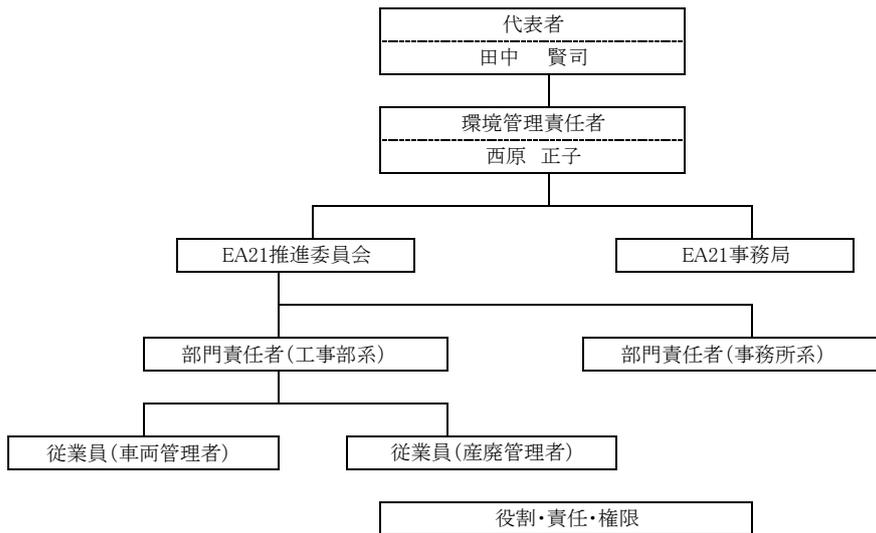
1. 環境経営システムを効果的に運用して環境保全の向上に努め、環境経営の継続的改善を図ります。
2. 環境関連法規、条例等を遵守し、環境汚染の未然防止に努めるとともに、次の活動に取り組み、環境負荷の低減に努めます。
 - (1) 電力、車両用燃料等の省エネルギーを推進し、二酸化炭素の排出量を削減します。
 - (2) 事務所及び現場の廃棄物の分別を徹底し、リサイクルによる資源化を推進します。
 - (3) 日常的な節水により、総排水量を削減します。
 - (4) 化学物質使用時は、法規に準じた製品と必要量を使用し、管理を徹底する。
 - (5) 環境に配慮した商品のご提案と、長期的持続可能な施工・サービスを推奨します。
3. 地域の環境活動に参加し、地域環境保全に努めます。
4. この環境経営方針を全従業員に周知するとともに、環境教育を実施して、環境意識の向上に努めます。



2023年9月1日制定
有限会社 田中設備企画
代表取締役 田中 賢司



3.組織図及び実施体制



代表者	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境経営全般に対する責任と権限 2.課題とチャンスの明確化、及び環境経営方針の作成と社員への周知 3.全体の評価と見直し 4.実施体制の構築
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境経営活動の推進・実施・維持・継続的改善 2.環境目標及び環境計画の作成 3.代表者への進捗報告・実施状況報告 4.環境レポート 環境関連文書及び記録の作成・整理 5.関連法規の取りまとめ表の維持管理・遵守徹底 6.環境関連苦情対応と記録
EA21推進委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境経営推進会議の実施 2.環境管理責任者補佐 3.環境負荷・環境への取組みの自己チェックの実施 4.教育訓練の実施 5.緊急事態時対応の訓練実施
EA21事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1.各部門のデータのまとめ 2.活動計画の実績管理 3.法規制最新版管理 4.環境管理責任者補佐 5.文書・記録の管理 6.環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部門責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1.月別部門のデータの集計 2.問題点の把握と是正の実施 3.推進会議の出席
各部門	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境計画の実施 2.教育訓練への参加

改定記録

改定数	改定理由	改定月日	承認	作成者



4. (基準年の環境負荷と)環境経営目標



環境目標	基準(実績)		年度目標		中期目標	
	2022年度 (通年)	22年11月 ~23年3月	2023年度 (通年)	23年11月 ~24年3月	2024年度	2025年度
1. CO ₂ 削減 (事務所+現場)	21,555 kg-CO ₂	9,496 kg-CO ₂	2%削減 21,124 kg-CO ₂	2%削減 9,306 kg-CO ₂	4%削減 20,693 kg-CO ₂	5%削減 20,477 kg-CO ₂
①電力使用 量削減 (事務所)	5,544kWh 2,528kg-CO ₂	2,740kWh 1,249kg-CO ₂	2%削減 5,433kWh 2,477kg-CO ₂	2%削減 2,685kWh 1,224kg-CO ₂	3%削減 5,378kWh 2,452kg-CO ₂	4%削減 5,322kWh 2,402kg-CO ₂
②車燃料使 用量削減 (事務所+現場)	8,193L 19,027kg-CO ₂	3,551L 8,247kg-CO ₂	3%削減 7,947L 18,456kg-CO ₂	3%削減 3,444L 7,908kg-CO ₂	5%削減 7,783L 18,076kg-CO ₂	7%削減 7,619L 17,700kg-CO ₂
2. ①産業廃物・ 再資源化率の向 上	再資源化率 78.9%	83.90%	1.1%上昇 80%	1.1%上昇 84.6%	2.1%上昇 80.6%	3.1%上昇 81.4%
②一般ごみの 削減			実績把握	実績把握	2023年度実績の 4%削減	2023年度実績の 6%削減
3. 水使用量削減 (事務所)	25m ³	10m ³	25m ³ 以下 24m ³	10m ³ 以下 10m ³	24m ³ 以下 23.7m ³	24m ³ 以下 23.5m ³
4. 環境配慮製品 の提案 (現場)	環境配慮製品 12件	環境配慮製品 4件	5%増加 13件	5%増加 5件	10%増加 13件	15%増加 14件

注(1)購入電力のCO₂排出係数:0.456kg-CO₂/kWh(東京電力エナジーパートナーR3年度実績調整後排出係数)

注(2)化学物質は使用していないので目標は策定していません

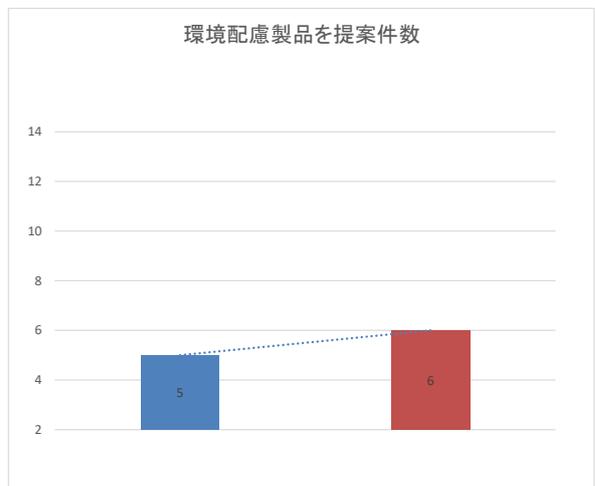
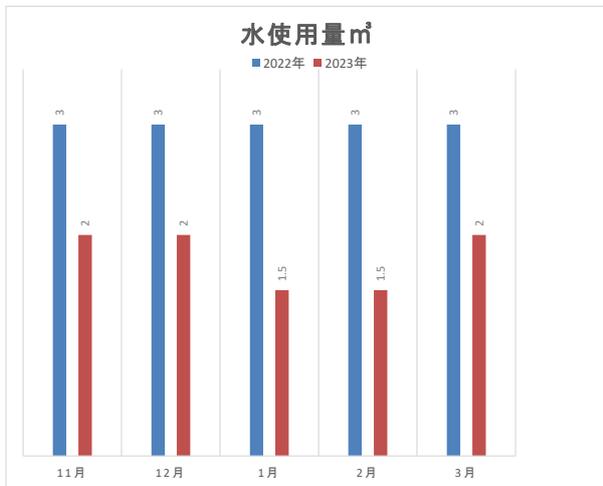
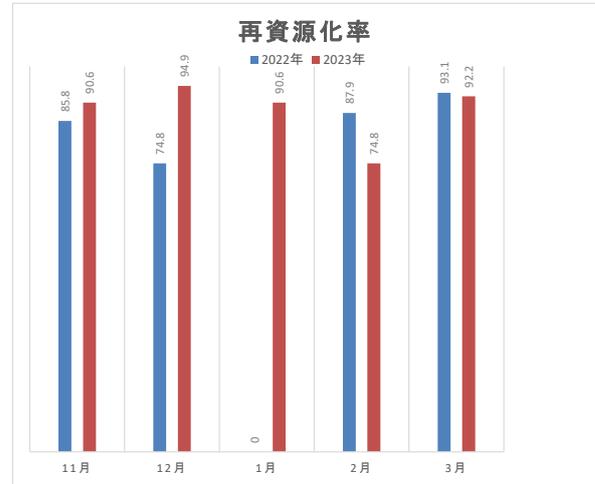
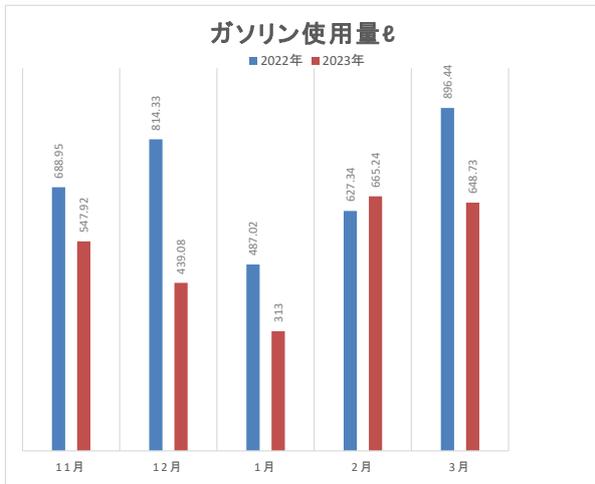
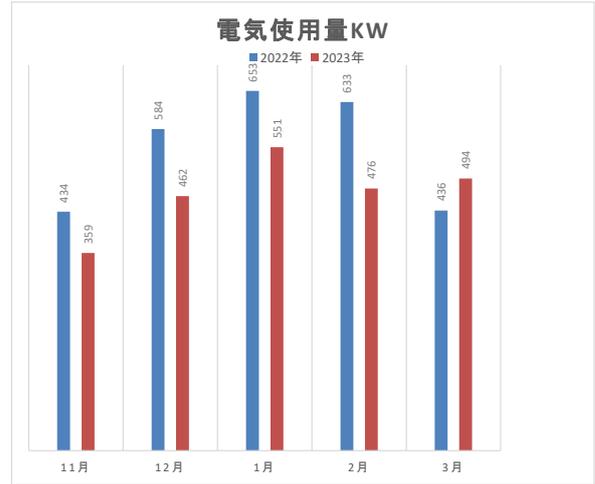
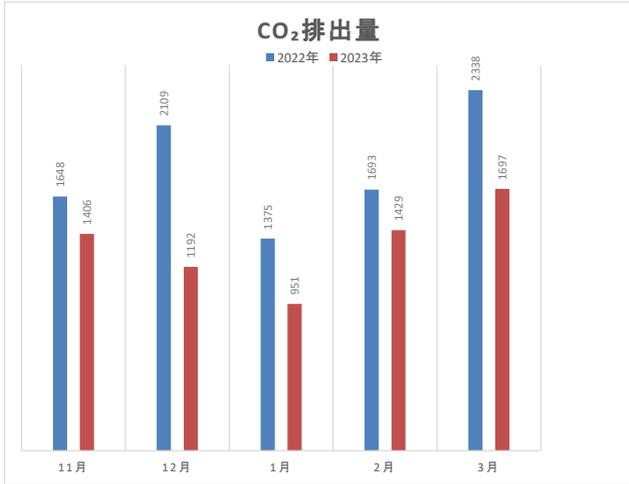


5. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

承認	作成
2024/4/12	2024/4/11
田中 賢司	西原 正子

環境活動計画	取組結果とその評価(23年11月～24年3月)			
	環境目標	実績	達成区分	取組結果と評価及び次年度取り組み内容 ☆:次年度取組内容
1. CO ₂ 削減	2%削減 (9,306kg-CO ₂)	22.9%削減 (7,150kg-CO ₂)	○	・電力削減 車燃料共に 大幅に目標を達成することが出来た。 ☆さらなる、削減に向け、無駄をなくしていく。
①電力使用量削減 ・使用時以外 電気は消灯 ・エアコンの温度管理	2%削減 2,685kWh (1,224kg-CO ₂)	14.5%削減 2,342kWh (1068kg-CO ₂)	○	・順調に目標を達成することが出来た。 更に 電気の消し忘れ、部屋の温度管理を徹底していく。 ☆ 扇風機・サーキュレーター活用し、夏場のエアコンの使い過ぎの対策をする。
②車燃料使用量削減 ・車輛点検整備の徹底 ・エコドライブの徹底 ・エアコンの適切使用	3%削減 3,444L (7,908kg-CO ₂)	25.4%削減 2,621L (6,082kg-CO ₂)	○	・都内への移動に電車を使用したことが、大幅な削減につながったと思われる。 ・年度末は竣工現場廻りの為、若干 使用量が増えてしまった。 ☆エコドライブと計画運転を徹底していく。
2. ①産業廃棄物削減・再資源化率の向上 ・廃棄物分別の徹底 ・入庫梱包材の持ち帰り依頼 ・簡易梱包依頼	再資源化率 84.6%	再資源化率 84.6%	○	・本年度は公共工事現場の産廃処分が無かったため、産廃が減ったと思われる。 ・年度末は竣工現場の産廃が増えた。 ・材料の発注確認不足による、残材が増えてしまった。 ・廃プラの排出が減った為、再資源化率が上がった。 ☆材料の取り過ぎによる、無駄を無くしていく。 ☆ 2024年4月から電子マニフェスト導入
②一般ごみの削減 ・購入業者に委託、ごみの持ち帰り ・紙の再利用 コピーの削減	実績値把握	実績値 32.6kg	○	・ごみの量を計測し、数値を見える化し ゴミの削減を図る ・要らないコピーやFAXを出さない。ドロップボックスで確認 ☆より一層のゴミ削減に協力してもらう。
3. 水使用量削減 ・節水協力表示で注意喚起 ・配管水漏れチェック	10m ³ 以下	9m ³	○	水の使用量は横ばいで現状維持。 ☆節水に心がけ、マイボトルの活用を推進する
4. 環境配慮製品の提案 売上増	5件	6件	○	売上に比例し増加。 施工の環境配慮を考えて取り入れていく。 ☆見積から積極的に取り入れていく。

○:目標達成、×:目標未達





次年度(2024年度)の環境経営目標



環境目標	基準(実績)	年度目標	中期目標
	2022年度 (4月～3月)	2024年度 (4月～3月)	2025年度 (4月～3月)
1. CO ₂ 削減 (事務所+現場)	21,555	4%削減 20,693	5%削減 20,477
	kg-CO ₂	kg-CO ₂	kg-CO ₂
①電力使用 量削減 (事務所)	5,544kWh	3%削減 5,378kWh	4%削減 5,322kWh
	2,528kg-CO ₂	2,452kg-CO ₂	2,402kg-CO ₂
②車燃料使 用量削減 (事務所+現場)	8,193L	5%削減 7,783L	7%削減 7,619L
	19,027kg-CO ₂	18,076kg-CO ₂	17,700kg-CO ₂
2. ①産業廃物・再 資源化率の向上	再資源化率 78.9%	2.1%上昇 80.60%	3.1%上昇 81.4%
	②一般ごみの削 減(注3)	78.3kg	4%削減 75.2kg%
3. 水使用量削減 (事務所)	25m ³	24m ³ 以下 23.7m ³	24m ³ 以下 23.5m ³
	4. 環境配慮製品 の提案 (現場)	12件	10%増加
13件			14件

注(1)購入電力のCO₂排出係数:0.456kg-CO₂/kWh(東京電力エナジーパートナーR3年度実績調整後排出係数)

注(2)化学物質は使用していないので目標は策定していません

注(3)一般ごみの基準値は2023年度の推定実績(11月～3月実績x2.4)



6. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無



作成日 2023年 10月 15日

見直し日 2024年 3月 30日

法規・条例・規則	適用内容または規制基準値	備考	遵守年月日(令和6年 3月 30日) 遵守評価者(西原 ・ 田中)	
水道法	指定工事店申請 及び工事申請	5年毎の更新	担当者	遵守
	責任技術者の配置	講習受講	担当者	遵守
	給水装置の構造及び材質は 法令で定める基準に適合	常時	現場管理責任者	遵守
下水道法	指定工事店申請 及び工事申請	5年毎の更新	担当者	遵守
	責任技術者の配置	5年毎の更新	担当者	遵守
	使用開始/変更届の提出	工事完了後3日以内	申請担当者	遵守
浄化槽法	県知事登録、浄化槽設備士の設置	常時	担当者	遵守
	浄化槽設置届又は変更申請届出	必要時	現場管理責任者	遵守
騒音・振動規制法	低騒音機械の使用	必要時	現場管理責任者	遵守
	生活環境を保全する	必要時	現場管理責任者	遵守
道路法	道路占用許可申請	必要時	現場管理責任者	遵守
道路運送車両法	自動車の定期点検整備	必要時	担当者	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の再資源化	必要時	担当者	遵守
フロン排出抑制法	機器廃棄時の適正回収と書類の保管	廃棄時から3年間	現場担当者	遵守
	エアコン簡易点検の実施	1回/3ヶ月	環境管理責任者	遵守
廃棄物処理法	マニフェストを5年間保管	常時	環境管理責任者	遵守
	一般ごみは処理事業者に持ち込み	必要時	環境管理責任者	遵守
	保管場所の表示	常時	環境管理責任者	遵守
	6月30日迄に県知事に報告書提出	年1回	環境管理責任者	5月予定
	電子マニフェスト導入 4月より	排出時	環境管理責任者	予定
建設リサイクル法	建設工事に係る資材の再資源化	必要時	今期該当工事なし	

★ 環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

★ 近隣、施工現場からの苦情、要望はありません。



7. 2023年度環境活動計画の実施状況



活動目標	活動項目	2023年11月～2024年3月				
		11月	12月	1月	2月	3月
二酸化炭素排出量削減						
(電気使用量の削減)	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機温度管理の実施 室温 夏28℃ 冬20℃ ・温・湿度計の設置 ・空調機フィルター・室外機定期清掃点検 ・使用していないエリアの空調停止 ・消灯の徹底 (昼休み中・不使用エリアの消灯) ・パソコン・複合機の省エネモード化(電源を切る) 	→	→	→	→	→
(ガソリン使用量の低減)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの推進 ・日常点検・法定整備の実施 ・省エネオイルの定期交換 ・タイヤ空気圧点検 ・アイドリングストップの実施 ・過積載の禁止 ・冷暖房温度管理の実施 ・計画的運行 ・公共機関の利用 	→	→	→	→	→
産業廃棄物の削減及びリサイクル						
(産業廃棄物削減・再資源率向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物分別の徹底 ・電子マニフェスト導入 ・簡易梱包依頼 ・入庫梱包材の持ち帰り依頼 ・過剰発注の禁止 	→	→	→	→	→
(一般廃棄物の削減)	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の再利用、削減に努める。 ・ゴミの分別の徹底(資源ごみとの分別) ・業者委託の前に計量する。 	→	→	→	→	→
環境に配慮した活動						
排水量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の表示 ・配管水漏れチェック 	→	→	→	→	→
環境配慮の製品の提案件数	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ機器、節水機器の販売 (空調機・衛生設備・給湯器) 	→	→	→	→	→
フロンガスの適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・フロンガス排出抑制法に則り回収 	→	→	→	→	→
事務所空調室外機の点検	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に一度の点検実施 	→	→	→	→	→
地域貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣道路清掃 商店街活動 	→	→	→	→	→

8. 環境活動状況

1. 掲示物やステッカー表示

☆ 節水表示



☆エコドライブ



☆室温管理



2. 一般ごみの分別

☆相模原市ゴミの出し方



☆ふたに分別表示



3. 産業廃棄物置場や倉庫内の整理整頓

☆整理・整頓



☆産廃標示板



4. 緊急事態時の訓練

エコアクション勉強会

清掃

☆緊急事態時の訓練



☆勉強会



☆空調機清掃





9. 代表者による全体評価と見直しの結果



(1) 全体評価

環境経営目標の数値については、目標以上の成果が上がり、業務においてもエコアクション21の活動が実行され、社員の意識に浸透していることを実感しております。

今後については、新しいことにもチャレンジし、今ある活動をより一層社員に理解してもらい、エコアクション21の目的である、環境保全を達成していきたいと考えております。

(2) 見直しの結果

各項目別の見直し

① 二酸化炭素の排出量削減を達成

電気の使用量は、必用のない場所の照明とパソコンの電源消灯や、空調機の温度設定を抑える事により目標達成する事ができた。ただし、夏の3カ月間は猛暑により、前年比より上回る結果となりました。扇風機・サーキュレーター等を活用し、室内温度の調整を図りたいと考えております。

ガソリンの使用量については、現場件数、売上高のわりに、大幅に目標を達成する事ができた。都内の現場への電車移動や、計画的な運行が大きく影響したと思われる。

目標数値と実績が明確になった事により、次年度はより一層の意識向上を目指したいと思っております。

② 産業廃棄物排出量削減と再資源化率の向上

産業廃棄物排出量は結果として少なかったが、現場の特性によっては総排出量が増加してしまう事もあるので、次年度以降も無駄を無くし、更に再資源化率向上を目指し取り組んでいきたい。

③ 水使用量削減

水の使用量については、現状維持となったが、より節水に心がけるよう、引き続き取り組んでいきたい。

④ 環境配慮製品の提案

長期物件の竣工がたてこんでおり、個人顧客に対する環境配慮製品の提案が少なかったのですが、取組期間内での目標は達成できました。近年の電気料金やガス料金の高騰により消費者の環境意識は急速に高まっています。そこをビジネスチャンスと捉え、積極的に環境配慮製品を提案し社会全体で、環境への負荷を減らし、持続可能な社会づくりに貢献していきたいと考えております。

*年度活動目標はほぼ達成できましたが、更に全ての社員、協力業者の理解を深め、次年度目標数値を全て達成できるように取り組んでいきたいと思っております。

(3) 指示

1.環境経営方針の変更の必要性	あり	・	なし
2. 環境経営目標及び環境経営計画の変更の必要性	あり	・	なし
3. 実施体制の変更	あり	・	なし

次年度以降も継続的に 環境活動を実施し、その結果で、方針、計画を見直していく事とする。



令和6年4月15日

有限会社 田中設備企画

代表取締役 田中 賢司